



現場から（最近のニュースから）

ありのままの自分

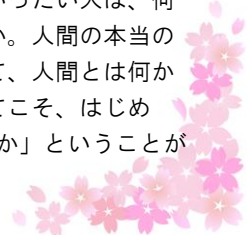


新年度が始まりました。いろいろ新しいことが始まった人も多いでしょう。久しぶりに出会った人に「最近、どうしてるの」と問われて、新しく始まった何かを報告することもあるでしょうが、そうではなく、答えられる「何か」がない場合もあるでしょう。その「何か」について考えてみようという『「おりに」思想 無駄にしんどい世の中だから』（飯田朔著、集英社）についての記事がありました。

著者である飯田氏は、2018～2019年に「日本から距離をおく」という以外、特段目的なくスペインで留学を経験し、その中で「社会が提示してくるルールや人生のモデルから身をおろし、自分なりのペースや嗜好を大事にして生きる」という、「おりに」思想に磨きをかけたということです。そして、一般的に「何か」と言われるのは、大なり小なり結論、発見、狙いといった類の話で、そのようなことではない、「ネコにエサをあげたらいつも通り食べた」とか「野菜を育て始めたけどまだ芽は出ていない」とか「語学を始めたけど特に目的はない」というようなことは、「なんでもないこと」にカテゴライズされてしまいがちだと言われています。飯田氏は、そのようなことに疑問を投げかけて、「なぜ我々はそんなにも頑張る必要があるのか？」「そのまま、ありのままでもいいはずなのでは？」と言われているということです。

飯田氏によると、人に「スキルを身につける」と迫ったり、中身のないロールモデルを押し付けたりしてくるのは、いわば個人に対して「あとづけ」の技能や目標を強要する考え方であり、根本的なところでは人が元々持っている、その人なりの存在意義や権利といったものをないがしろにする考え方なのではないかということです。また、朝井リョウ氏の小説についても言及していて、その小説の登場人物が何かを「あきらめる」ということ、それ自体が「選択」をすることであり、実際は「おりに」選択を強いられているのだということです。つまり、「おりられない（あきらめられない）こと」を受け止めるのではなく、「おりに（あきらめる）」選択をしていることだと言われているそうです。最後に、とにかく「自分はどうしたいのか」をまずは考えてみれば良いと言われています。（3月27日ダ・ヴィンチ<どうしたら頑張らないまま自分らしくいられる？ 新年度を迎える今だから考えたい、「おりに」ということ>より）

結局は、自分らしくいるのではなく、がんばって自分を作っているということでしょうか。ただ、自分がありのままが良いと思わず、人が願うような自分になるように選択をしていると気づくことも難しいですし、たとえ気づいても、「自分なりのペースや嗜好を大事にして生きる」には、どうしたら良いのかは、簡単に分からないでしょう。それは、本にも書かれているとおり「根本的にある、人にある存在意義や権利」ということが、分かっていないからでしょう。いったい人は、何のために生きているのでしょうか。がんばって、なにを成し遂げたいのでしょうか。人間の本当の根本的な存在理由は、人間が考えても分かりません。いちど、自分という枠を出て、人間とは何かを根本的に見て、そこから自分の存在意義を見つけてみませんか。そのようにしてこそ、はじめて、「人間らしい生き方」つまり「自分らしくいること、自分はどうしたら良いのか」ということが分かります。いっしょに、そのことについて考えてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください